

大学としての全体評価

各研究科・各学科の自己点検評価は基準領域・基準項目のすべてについて詳細に行われている。全体評価は、それらを統括したものとしている。

【教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組】

- ① 各研究科・各学科の教職課程においては、目標及び教師像等を本学ホームページで広く周知している。これは、学生に育むべき資質能力としての学修成果（ラーニング・アウトカム）の具体的な提示である。
各科目においては、厳格な評価基準としての「到達目標」を示し、本学教職課程の質を担保している。また、最新の情報や社会情勢をとらえた内容での実施展開も実現している。加えて、FD・SDの面でも確実な取組となっている。
特に、学生に対しては、目指す教師像及び学位授与の方針を理解した上での学修が必要であることを指導し、確実に実行している。
これらのことにより、免許状を取得する学生には「十分な学修内容に裏打ちされた高い資質と能力を身に付けた教職に就くことがふさわしい学び」が実現し、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護教諭の何れの教員採用検査においても極めて高い合格率を実現することに繋がっている。
- ② 上記①に記載した各研究科・各学科の目標及び教員像等を「教職課程に係る全教員が適切な時期にすべての内容を確認し、共通理解に立つ」ことができる環境及び周知体制として全学で整備している。各研究科・各学科においては、所属教員らが適切なタイミングで相互に目標及び教員像等の確認を行い、随時、質の向上がなされる授業を展開している。
これらは教職課程に必要とされる「学生の形成的な自己評価」を促し、より高い教員としての資質を育むことに繋がっている。
- ③ 教職課程の運営に関しては、全学組織（教職センター）が中心となり、教職センター運営委員の教員及び事務職員で適切な役割分担を図り、確実な取組を行っている。
本体制の整備及び確実な取組により、各研究科・各学科との連携は強固なものとなっており、本学の教職課程が学生の育成に確実かつ十分な成果をもたらし続けている。

【学生の確保・育成・キャリア支援】

- ① 履修登録上の工夫については、全学組織（教職センター）の準備する教職課程履修届、教育実習履修届等の資料を基盤とし、各研究科・各学科では履修学生数や科目内容との関係性を考慮しながら、取組を工夫している。
- ② 上記①のことにより、教職課程履修への意欲を示す学生の状態や適性を十分に把握した上で教育実習等の履修希望を受け入れることが実現している。
- ③ 前述①②が確実に実現していることから、学生の望ましい履修状況、教員採用検査への積極的な取組の姿勢を生みだしている。

- ④ 教職を目指す学生個々の状況を各教員がしっかりと把握できていることで、学生個々に対する時期を捉えた形式的でかつ十分な指導が可能となり、教職に対する学生の意欲を常に喚起し、高めている。これらにより、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護教諭の何れの教員採用検査においても極めて高い合格率を実現している。

【適切な教育課程カリキュラム】

- ① 各科目においては、教育基本法や各種規程、コアカリキュラム、学習指導要領の基本方針に対応した必須内容の学びを重点としながら、今日的な教育にかかわる諸課題を踏まえた内容を適宜加えている。
- このことは、当然のように、教科及び教職に関する科目の各科目領域間の系統性の確保といった適切な教職課程カリキュラムの実現に繋がり、最終的には、幼児・児童・生徒の能動的参加を引き出す指導の在り方を学修するものとなっている。
- ② 履修カルテを活用する意義への理解は更に高まってきており、教職実践演習の学びの在り方をより望ましいものへと導いている。
- ③ 体験の場を積極的に提供する工夫を講じている。特に、教育実習においては、実習校及び関係機関との連携を十分に行い、単に経験を積むといったことではない体得の場としての実習となるように、学びの往還を大切にしたい指導を行っている。
- ④ 教職課程教育を行う上での施設・設備は十分に整備され、いずれの科目展開においても学修内容の習得に向けた環境の活用が適切に行われている。
- ⑤ 本学教職課程が適切かつ十分、さらに、時代の必要に応じた内容を備えたものとしてあり、本学学生の十分な理解、望ましい履修状況が実現できているからこそ、学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリアの実現にもつながっている。

本学が実施している教職課程の自己点検評価は、全学としての取組及びその基盤のうえで実施している各研究科・各学科独自の取組について、基準領域・基準項目ごとに実施するものとしている。このことは、各研究科・各学科における取組を、そこに所属する全教員が確実に、しかも全項目について点検・評価することを意味する。

具体的には、自己点検評価の根拠となる学生の履修状況のチェックや調査、そして、そこから得られる知見や考察をもとにした「科目内容へのフィードバック」「各研究科・各学科としての独自の取組」を通じて、各研究科・各学科の教職課程を常に改善している。

自己点検評価に対する「この考え方」と「細心の注意を払いながら丁寧に実施している教員の姿勢」、「これらを確実に推進することができるよう基盤や手順、状況を明示する全学組織の存在」こそが、本学教職課程を常に最善のものとして更新し、確かな実践に結びつけている決定的な要因である。

今後も建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を展開していく。